



Richard M. Stallman: The GNU Manifesto

Dr. Dobb's Journal, Vol.10, No.3 (Mar. 1985)

「GNU プロジェクト」の発足時に参加と支援を呼びかけるために Richard Stallman によって書かれたのが、この GNU Manifesto である。フリー（自由）ソフトウェアが広く使われ、ようやく社会運動としての理解が進むようになった現在、改めてもう一度、読み直したい。

1983 年の 9 月末、自由のシステム "GNU" について、最初のアナウンスが USENET に出された。GNU は UNIX 完全互換のシステムだが、UNIX と同一ではない。UNIX のプログラムを走らせることが可能だが、他の OS の経験に基づき UNIX を改善するとされた。隣人とプログラムを共有できる社会を（もう一度）作るため、不自由なソフトウェアに依存しない、自由のソフトウェアを集め、完全な OS を作ろうとしたのだ。自由への闘い、これが「GNU プロジェクト」である。

当初は、GNU プロジェクトはこの年の感謝祭に開始するとされていた。だが、実際のスタートは、翌 1984 年の 1 月、Richard Stallman が MIT AI ラボを辞した後である。まず、最初の開発として、拡張可能な自由のエディタ GNU Emacs が作られた。そして、C コンパイラの開発（一度失敗するが再度頑張る）、デバッガの開発へと進む。カーネルが残された課題だった。

技術面でこれらのプロジェクトの進捗を反映し、そして社会運動としての説明を大幅に加え、アナウンスは書き直され、GNU Manifesto としてまとめられた。そして、GNU プロジェクトの旗印として、GNU Emacs のプログラムとともに配布されることとなる。GNU Emacs のマニュアルの最後の章として、また、コマンド describe-project として、多くのプログラマに読まれる文章となった。出版物としては、Dr. Dobb's Journal に 1985 年 3 月号に掲載されたものが初出である。

その後、プロジェクトの進展により若干の改定が行われたが、変更せずに残すこととなった。1993 年に脚注が付けられたものがそれ以降の GNU Emacs で配布され、マニュアルに含まれている（GNU Emacs バージョン 21 以降では、GNU Manifesto に代わって、"The GNU Project" の文章が describe-project で表示されるようになってる）。

最初のアナウンスでは存在しなかった、インターネットプロトコルへの言及、GNU の発音、コピーレフトの考え、異論に対する回答が追加されているのが興味深い。異論に対する回答は長さとしては 6 割を超す。これは、当時 GNU プロジェクトに対してさまざまな疑問や異論が出されたことを物語る。この回答の中で、自由なソフトウェアに関連するビジネスも考察されている。

Richard Stallman が問題としたのは、ユーザを分断し支配しようとするソフトウェア産業の悪しき慣習である。プログラマが隣人を助けることを否定することによって成立している、プロプライエタリなソフトウェアの市場の破壊的取り決めである。GNU は、システムソフトウェアにおいて、この社会的問題を解決する具体的なシステムを提唱したものだ。

良質なシステムソフトウェアを誰もが自由に入手でき、自由に利用できる。完全なソースコードを誰に対しても配布できる。作成者に縛られ支配されることなく、必要ならば変更を独立に施すことができる。これが、GNU Manifesto で唱われた世界だ。しかし、当時、多くの人々にとって、これは実現不可能なまったくの夢物語にみえた。便利に GNU のソフトウェアは使っても、その来たるべき世界を信じられなかったのだ。

この世界は、1990 年代に入って意外なかたちで実現されることとなる。GNU プロジェクトの外で作られたカーネル Linux を加えることによって、完全な自由の OS が技術的に可能となり、実現されたのだ。それから開発はとどまらず、さらに、GNOME デスクトップ環境へ発展し、プロプライエタリのシステムに挑戦し続ける。

そして、今、自由のシステムが人々の目に触れ、GNU 本来の社会運動が広がり出した。そう、これからなのだ。

参考文献

- 1) Stallman, R.: New UNIX Implementation, USENET message (net.unix-wizards, net.usoft) (Sep. 1983)
<http://www.gnu.org/gnu/initial-announcement.html>
- 2) Stallman, R.: Free Software, Free Society: Selected Essays of Richard M. Stallman, GNU Press (2002).

(平成 15 年 5 月 14 日受付)

